- 1. 件名:高性能容器(HIC)内のスラリー性状に関する追加調査内容等についての面談
- 2. 日時: 令和3年5月14日(金) 13時00分~14時50分
- 3. 場所:原子力規制庁 6階会議室
- 4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部 東京電力福島第一原子力発電所事故対策室 竹内室長、岩永企画調査官、澁谷企画調査官、大辻室長補佐、 知見主任安全審査官、久川係員、髙木技術参与

吉田技術参与、近藤技術参与、平山技術参与、鈴木技術参与、林技術参与 (テレビ会議システムによる出席)

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー プロジェクトマネジメント室 担当5名(テレビ会議システムによる出席) 福島第一原子力発電所 担当5名(テレビ会議システムによる出席)

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社(以下「東京電力」という。)から、4月15日の面談における原子力規制庁からの指摘を踏まえ、高性能容器(以下「HIC」という。)内のスラリーの性状に関して、今後実施する追加調査内容等について、資料に基づき以下の説明があった。
 - ▶ HIC 内スラリーの密度調査を目的としたサンプル採取作業について
 - ▶ HICからのスラリーの抜出し、移替え作業について
- 原子力規制庁は、HIC の積算吸収線量の評価に対する東京電力との間の認識の相違点について、資料に基づき説明するとともに、東京電力からの上記説明内容について、以下のとおりコメントを行った。
 - ▶ HIC の積算吸収線量の算定における計算条件について、東京電力と原子力規制庁の間で認識に相違が残るのは HIC 底部におけるスラリーの密度をどのように設定するかであり、スラリーの沈降度合いや HIC の劣化に影響する領域を考えると、東京電力が設定している密度よりも大きな値にすべきと考える。
 - ► HIC 底部におけるスラリーの密度は実際の HIC 内のスラリーを調査して測定することが望ましいが、HIC の劣化に影響する領域である、底部数ミリ付近に溜まっているスラリーのサンプル採取は非常に困難であり、東京電力が計画しているサンプル採取方法では必要な情報が得られないと考えるため、採取方法を見直すことを求める。
 - ▶ サンプル採取調査対象 HIC の選定について、スラリーの放射能濃度がスラリーの沈降度合とは関連性が薄いのであれば、被ばく低減の観点から、保管期間が長いHICのうち最も表面線量が低いHICを選定するべきと考える。
 - ► HIC 内スラリーの抜出し、移替え作業については、実施の前提としてその目的を明確にすべきであり、先ずは HIC 内スラリーの性状を把握することが重要であると考える。

6. その他

資料:

- ▶ 高性能容器(HIC)内のスラリー性状に関する追加調査とその実施内容について [東京電力]
- ▶ HICについての共通認識 [原子力規制庁]